

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
日本の経営思想I			
英語科目名			
前後期		履修期	開講区分
前期		1期	毎週
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野1
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
吉田 健一		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3756		k5621643@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週水曜日午後 事前に連絡すれば上記以外でも可。			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		社会的貢献意識	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>本講義の目的は、現在、狭義の「経営学」では対象とされにくい、我が国に近世から脈々と存在してきた、経営に対する思想、考え方、資本主義の捉え方、それらの思想に基づく経営の利点を理解し、昨今、世界を席卷している、アングロサクソン型の経営学とは違った組織論・人間論・資本主義論の特徴を理解する事である。</p> <p>今日、経営学といえば、人事管理の手法や財務体質をどう強化するかというような意味で研究が盛んであるが、成功した経営者は、押し並べて、皆、一様にその人間観や人生観、組織観、社会と企業の関係、また、(今日の言葉でいう)資本主義の根本への考え方を述べている。経営の成功と、その経営者の思想とは切っても切れないものである。否、極論すれば、経営者がどのような思想(人間観・社会観、企業観、資本主義観)をもっているかが本来は最も大事な事である。これらをまとめて「経営思想」と括る事は可能であるが、これらが、今日、狭義の「経営学」の範疇で取り上げられる時は成功者のケーススタディーとして分析されるに留まり、また、「経営セミナー」のような所では、崇敬の対象として語られる事が多い。網羅的に思想史的観点から論じられる事は少ない。</p> <p>本講義では、日本の経営思想の特徴を、石田梅岩の石門心学に遡り、近代・現代の代表的な経営者の思想を取り上げる。本学の卒業生、稲盛和夫氏についても、近現代の代表的な日本の経営思想家との位置付けで最後に触れる。</p> <p>受講生諸君には、経営学は、アングロサクソン系のものばかりではない事、又、資本主義の目的とは何かという根本的な命題について、取り上げる4人の思想・人間観から学びとって欲しい。</p>			
学習目標			
<p>1. 日本の近現代の経営者と経営思想について学び、資本主義の本質をどう捉えるか考え、今後の日本のあるべき、資本主義の方向性を自身で考える。</p> <p>2. 現在、狭義の「経営学」では対象とされにくい、経営に対する思想、考え方、資本主義の捉え方には、我が国には、近世から独特なものがあり、それらの思想に基づく経営の利点を理解し、昨今、世界を席卷している、アングロサクソン型の経営学とは違った組織論・人間論・資本主義論の特徴を理解する。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>1. はじめに 日本の経営と日本の経営思想</p> <p>2. 石田梅岩1 石門心学にみる商人道徳</p> <p>3. 石田梅岩2 石門心学にみる商人道徳</p> <p>4. 石田梅岩3 石門心学にみる商人道徳</p> <p>5. 渋沢栄一1 近代日本資本主義と「道徳経済合一説」</p> <p>6. 渋沢栄一2 近代日本資本主義と「道徳経済合一説」</p>			

7. 渋沢栄一 3 近代日本資本主義と「道徳経済合一説」

8. 松下幸之助 1 P H P 思想と松下の人間観

9. 松下幸之助 2 P H P 思想と松下の人間観

10. 松下幸之助 3 P H P 思想と松下の人間観

11. 稲盛和夫 1 その人間観と経営学

12. 稲盛和夫 2 その人間観と経営学

13. 稲盛和夫 3 その人間観と経営学

14. 稲盛和夫 4 その人間観と経営学

15. まとめ 資本主義の今後を考える

#### 受講要件

#### 成績の評価基準

日本の近現代の経営者、経営者の人間観や社会観、資本主義観に関心を持っている事が望ましい。

全て出席を前提として

(1) 毎回のフィードバックシート (50%)

(2) 期末レポート (50%) を総合的に評価。出席そのものを評価の対象とはしない。

暗記による知識の定着を問うものは実施せず、感じたこと、考えた事をどれだけ自身の言葉で表現できるかをフィードバックシート、レポートで問う。オリジナリティを評価の対象とする。但し、レポート執筆に当たって最低限の知識は必要となる為、講義に全て出る事をレポート提出の条件とする。

#### 教科書

#### 参考書

特に指定しない。講義で資料配布。右記の参考図書を初め、随時、(出来れば読む事の望ましい) 参考図書を紹介する。

『日本資本主義の精神』、『勤勉の哲学』(いずれも山本七平) 『都鄙問答』石田梅岩・岩波文庫、『論語と算盤』渋沢栄一・国書刊行会・昭和60年、『公益の追求者・渋沢栄一』渋沢研究会編・山川出版社・1999年、『商売心得帖』松下幸之助・P H P 文庫・2001年、『経営心得帖』松下幸之助・P H P 文庫・2001年、『経営のコツこなりと気づいた価値は百万両』松下幸之助・P H P 文庫・2001年、『実践経営哲学』松下幸之助・P H P 文庫・2001年、『稲盛和夫の哲学 人は何のために生きるのか』稲盛和夫・P H P 研究所・2001年、『生き方』稲盛和夫・サンマーク出版・2004年、『ガキの自叙伝』稲盛和夫・日本経済新聞社、『君の思いは必ず実現する』稲盛和夫・財界研究所・2004年、『稲盛和夫の実学』稲盛和夫・日本経済新聞社 他多数。講義の都度紹介予定

#### その他